

# 校長室の窓から

## 縄文人の食生活から学ぶ

11月14日 第46回宮城県学校給食研究大会石巻大会記念講演から

先月、石巻で宮城県小中学校教育研究会学校給食部会研究大会があり、大会役員としてに参加した際、記念講演の話がとても興味深い内容でしたので、ここで紹介したいと思います。

講師の方は、奥松島縄文村歴史資料館の文化財専門官、菅原弘樹さんでした。

まず、驚いたのは、「貝塚」の説明でした。貝塚からは、人骨や犬の骨も出土し、貝塚とは現代人がイメージする単なる「ゴミ捨て場」ではなく、「全てのもののお墓」である、というお話でした。

「縄文時代の人々には、“ゴミ”という概念や感覚はなく、自然の恵みである食べ物に感謝し、自然に戻す。人間や動物の最後も自然に戻し、再生を願うという思いがあった」とのこと。

貝塚から出土するものからこんなことも分かるのだそうです。

- ・春はアサリ、群れをなして押し寄せてくるイワシ、フグを捕獲。
- ・夏は外洋でマダイ、クロダイ、スズキ、マグロなどの大型魚を釣針や鉾、ヤスを使って捕った。
- ・秋は回遊してくるアジ、サバを獲り、山ではクリ、トチノキなどの木の実を採集した。
- ・冬はシカ、イノシシなどの獣やウミウ、ガン、カモなどの冬鳥を捕獲した。



- ・縄文人の料理は鍋中心だった。→縄文人の大半は塩を知らず、基本の味付けは魚や動物の骨の出汁。
- ・しかし、縄文時代の松島湾は、国内最大の塩の産地だった。集落内での消費ではなく、交易を目的にしていた。
- ・縄文人の顔は上下に短く、彫が深い。眉間が発達し、鼻の付け根が凹む。大きな鼻骨。
- ・身長は男性160cm弱、女性150cm弱。腕や脚の筋肉が発達。海辺の縄文人はマッチョ。
- ・平均寿命は40歳前後。
- ・海辺の縄文人は素潜りをしていたため、外耳道骨腫（サーファーズ・イヤーズ）が多かった。

わたしたちが、普段の食事前にする「いただきます」のあいさつは、調理をしてくれる方々への感謝ばかりではなく、こうした自然からの恵み、恩恵に対する感謝の気持ちを表すことばであること、そして、縄文の人々は、私たち現代に生きる人間よりももっと強く自然に対する感謝の念をもっていたに違いありません。

子供たちに「給食を残さずに食べなさい」とは、もちろん言いませんが、少なくとも自然の恵みに対する感謝の気持ちをもって、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつを、学校でも家庭でもしてほしいと思います。

現代の「フードロス問題」「海洋プラスチック問題」などの食を取り巻く社会問題が叫ばれて久しくなりますが、多くのボランティア団体等が懸命な努力を続けているにもかかわらず、一向に改善される兆しは見えません。

私たちの祖先である縄文の人々の“自然に対する畏敬の念”を私たち一人一人が想像してみることが、この問題を解決する糸口になるのではないかと考えさせられたお話でした。